

齋藤茂樹の 北関東巡り

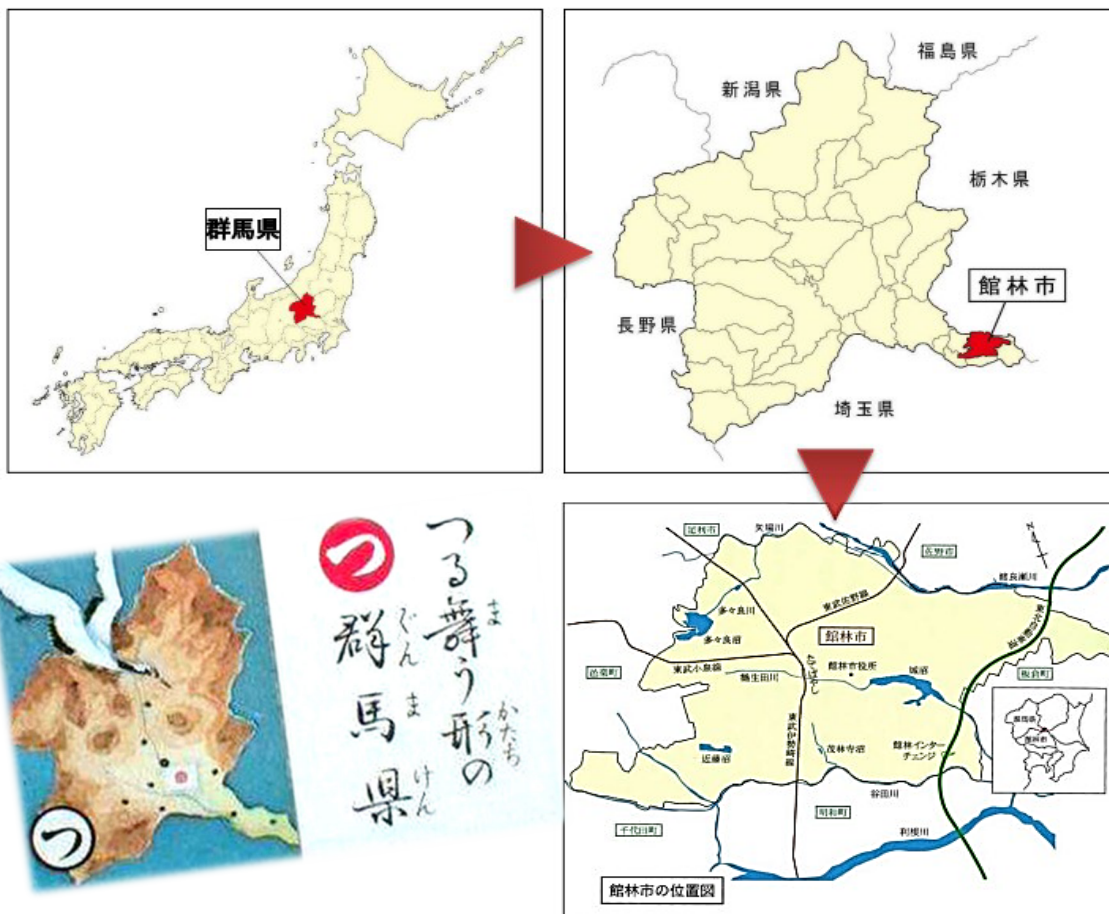


令和5年(2023) 3月31日

20

群馬、栃木、埼玉、茨城が接し合うエリアは古くから交通の要所でもあり、歴史も古く名所旧跡がたくさんあります。何より街がきれいで好きです。今回は、その中の群馬県館林市についてご紹介します。

北関東とは、関東地方の北部または中北部地域を指し、茨城、栃木、群馬の3県、もしくは埼玉県を加えた4県のことです。また、埼玉の中でも北部と秩父地域を北関東とし、南部や東部は含まないこともあり、埼玉県を北関東に含めない場合は、一般に南関東に含めます。



関東の山々が一望できる群馬県館林市

館林は「上毛かるた」で『つる舞う形の群馬県』といわれるように鶴の頭の部分に位置します（前頁参照）。

江戸時代、館林藩は初代藩主榊原康政^{さかきばらやすまさ}※、二代康勝^{やすかつ}、三代忠次^{ただつぐ}が城下を発展させ、六代目が徳川綱吉だったりと歴史的な変遷が面白く、江戸時代後期藩主の秋元家別宅は外観を無料見学できます。

「上毛かるた」の館林に関連する札には、「つつじが岡公園(花山公園)」と「小説家田山花袋^{はなやま}」と「分福茶釜^{たやまかたい}の茂林寺^{もりんじ}」が登場します。

※榊原康政は、室町時代後期から江戸時代初期にかけての武将、大名。上野国館林藩の初代藩主。徳川氏の家臣。徳川四天王・徳川十六神将・徳川三傑に数えられ、現在も家康覇業の功臣として顕彰されている。

館林には、田山花袋の旧宅があり、近年では心臓外科医で宇宙飛行士としても活躍した向井千秋さん(館林市出身)を記念した「向井千秋記念こども科学館」があります。正田醤油は上皇后美智子様の実家の本家が創業しており、館林駅の近くには、やはり正田家創業の日清製粉のミュージアムと正田記念館があります。

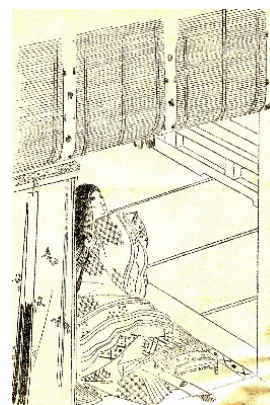


つつじが岡公園には、50種類以上、約1万株のつつじがあります。徳川綱吉が植えた赤いつつじに白や紫の彩りを添えて増やしたことから「花山」と呼ばれるようになりました。「上毛かるた」に「花山公園 つつじの名所」と紹介されているとおりです。推定樹齢800年を誇る「勾当内侍^{こうどうのないし}遺愛のつつじ」を始めとする、つつじの古木群や、宇宙飛行士の向井千秋さんが宇宙へ持って行って種子を発芽させた「宇宙つつじ」が植えられています。



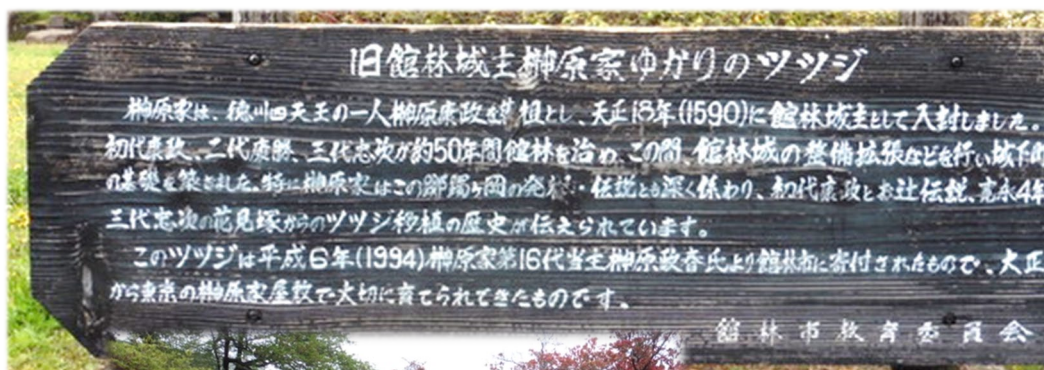
※勾当内侍

生没年不詳、南北朝時代の女官。本名は不詳。公家の世尊寺家の一族で、『太平記』に新田義貞の妻の一人として登場する。





左側のつつじが勾当内侍のつつじです





つつじ映像学習館

つつじが岡公園に隣接するつつじ映像学習館では、つつじや蓮、そして館林の歴史を映像で説明しています。映像ホールの前に、歴代のつつじ祭りのポスターや、パラソル等を使ったきれいな飾り付けや、向井千秋さんが宇宙で育てたつつじの生育を示すパネルなどが展示されておりこれらも充分楽しめます。



館林城址

館林城の跡は各所に土塁が残るほか、三の丸の土橋門が復元され、館林市立図書館の隣にある館林市第一資料館には館林藩に関連する資料と館林城のジオラマが展示されています。



田山花袋記念文学館と旧宅

田山花袋の作品(「蒲団」「田舎教師」など)は、島崎藤村や国木田独歩の作品などと共に自然主義文学と呼ばれ、文学館には花袋の自筆原稿のほか藤村や独歩の自筆原稿を見ることができます。花袋の作品はいかにも作り話のような小説ではなく実際にあり得る話、やや赤裸々な作品、私小説的な作品、というイメージがありましたが、歴史小説をかなり書いていたことをここで知りました。



田山花袋記念文学館



田山花袋旧宅



ほ
誇る文豪
たやまかたい
田山花袋



秋元家別邸

田山花袋旧宅は、花袋が7歳から14歳まで過ごした家です。文学館の隣に花袋の父が仕えていた館林藩主だった秋元家の別邸があり、庭と建物の外観をいつでも見ることができます。

旧上毛モスリン事務所

田山花袋旧宅の隣には、**旧上毛モスリン事務所**[※]の洋館の建物が館林市第二資料館として公開されています。モスリンとは平織りの布ですが、日本では羊毛生地(つまり毛布)のウールモスリンを指します。ふんわりとした風合いを示すフランス語のムースに由来するともいわれています。立派な建物と豪華な展示品から明治時代に大いに栄えたことが想像できます。ただし大正になって経営不振に陥り、さらに大正12年の関東大震災によるダメージが大きく日本毛織と合併、戦時中は工場が中島飛行機に貸与されたこともあったようです。



旧上毛モスリン事務所

※上毛モスリン株式会社は、明治・大正期に主に館林で織物業を営んだ企業。館林製粉(日清製粉の前身)とならんで館林の近代化に寄与し、館林出身の小説家田山花袋の作品にも登場する。1908～1910年にかけて館林城二の丸跡に館林工場を建築した際に建てられた事務所が、上毛モスリン株式会社のほぼ唯一の遺構として現在も残っている。

向井千秋記念こども科学館

向井千秋記念こども科学館には、プラネタリウムや天文宇宙、生物、岩石鉱物地質、物理現象、機械、などの展示があり、特に宇宙関係の展示は特徴的です。



日本の宇宙開発第一歩を印した**糸川英夫**さんのペンシルロケットの模型や、スペースシャトル内部がよくわかる展示のほか、宇宙飛行士**向井千秋**さん関連の展示はたくさんあります。



向井さんは心臓外科医（石原裕次郎の担当医でした）から宇宙飛行士になり、1994年と1998年に宇宙に滞在しています。1994年の時は金魚の宇宙酔いの実験なども行ったとのこと。現在は東京理科大学スペースコロニー研究センター長や花王株式会社の社外取締役などをしているようです。

<https://www.city.tatebayashi.gunma.jp/kagakukan/index.html>

[向井千秋記念子ども科学館トップページ](#) | [向井千秋記念子ども科学館 \(city.tatebayashi.gunma.jp\)](#)

大西飛行場とスバルプラン SUBARU Plane

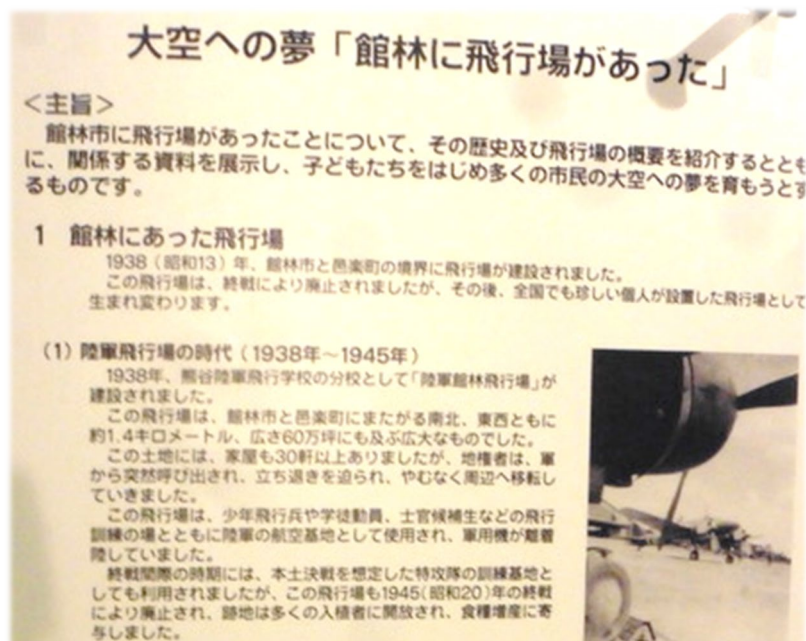
館林には、かつて大西勇一さんが作った大西飛行場がありました。科学館ではその飛行場についても紹介しています。また、大西さんが製作し、茅ヶ崎-大島間を飛行したスバルプランが展示されており、思いもかけずその存在を初めて知りました。

大西飛行場は、かつて群馬県おうらの館林市・邑楽郡邑楽町の境界線上にあった飛行場で、全国でも珍しい個人が建設した非公共共用飛行場でした。

昭和13年(1938)日本陸軍により館林陸軍飛行場が建設されましたが、終戦により廃止されました。その跡地へ昭和39年(1964)飛行機愛好家の大西勇一さんが飛行場を開設、その後平成16年(2004)不採算を理由に廃止されました。この飛行場は、滑走路中央付近を道路が横切っていたため、飛行機が離着陸するときは遮断機が下りて車両を通行させないようにしていた珍しい飛行場です。



また、大西さんが昭和45年(1970)にスバル・1000のエンジンを流用して制作したモーターグライダー「スバルプラン」は、自作航空機に与えられる機体記号『JX』を最初を取得した機体です。これも科学館に展示されています。



スバルブレンの洋上飛行

何度もテスト飛行を繰り返した結果、大西勇一さんは、スバルブレンでの長距離飛行が充分可能であることを確信、ぜひ実現してみたいと思うようになりました。長距離飛行をする際には、航空局の許可が必要です。

大西さんは、スバルブレンの安全性を説明しながら飛行申請を繰り返したものの、前例のない手作り飛行機なのでなかなか許可がおりません。

大西さんは、粘り強く1年間も航空局に通いつめた結果、ついに、人家のない海の上なら飛ばしても良い、という許可を得ます。

そして、1970年7月28日朝8時過ぎ、神奈川県茅ヶ崎市柳島のゴルフ場そばの堤防から、大西さんの操縦するスバルブレンは海のかなた、約60キロメートル先にある伊豆大島めざして飛び立ちました。

天候は快晴、風もなく絶好の飛行日和、離陸後2回旋回をした後、高度450メートル、時速80キロメートルほどで飛行を続け、出発してから58分後、多くの報道機関や航空関係者に見守られながら大島空港に無事着陸しました。少しの休憩後、茅ヶ崎市へ向けて離陸、帰りはいよいよエンジンも快調、往路よりも早い39分間で帰着できました。

大西さんは、前例のないこの飛行に対し、失敗すれば多くの人に迷惑がかかる、なんとしても成功させねばと計画を立てたときから、館林で延べ500回にも及ぶ実験を繰り返し、万全を期したそうです。



大島に向けて茅ヶ崎を飛び立つスバルブレ



茅ヶ崎-大島間

スバルブレン

製作年	1969(昭和44)年	自作航空機登録1号	JX0001
機体	主翼、尾翼ともに骨組みは木製、外張りは布、胴体は鋼管組み立て		
大きさ	主翼の幅 約12メートル、胴体の長さ 約6.5メートル、機体総重量 約250キログラム		
動力	富士重工業製自動車スバルエンジン 伊豆大島への飛行時は1,100ccエンジンを使用、数度の換装を経て展示品は1,300ccエンジンを搭載		
プロペラ	桜材6枚合板による手作り		
性能	巡航速度 時速70キロメートル	最大速度 時速100キロメートル	失速速度 時速40キロメートル 航続時間 3時間
その他	機体は組み立て式、分割させ一般的なトラックの荷台で運搬し、容易に組み立てが可能、このため日本各地の航空イベントに多数参加 1992年7月 大西さんより航空科学博物館(千葉県山武郡芝山町)に寄贈 2006年4月 同館より向井千秋記念子ども科学館への長期間貸出を受け、常設展示始まる		

分福茶釜の茂林寺と里沼湿地

上毛かるたにもある茂林寺境内には、たぬきの像が多数あり、コロナ禍ではマスクをしたたぬきの像もありました。



ふんぶくちやがま
分福茶釜の
茂林寺



茂林寺の北側には令和3年(2021)に日本遺産になった「**里沼**」という湿地帯があります。沼が人里近くにあり、人々の生活と深く結びつき、沼辺文化が育んだ多くの文化財があると言うことで日本遺産となりました。昨年のゴールデンウィークに行ったときには、つつじの花がきれいに咲いており、多くの鯉のぼりが飾られていました。



[里沼 \(SATO-NUMA\) | 日本遺産
ポータルサイト \(bunka.go.jp\)](https://bunka.go.jp)

日本遺産のポータルサイトによれば、館林の里沼は、沼ごとに特性が異なると書かれています。その歴史を紐解くと、里沼の原風景と信仰が共存する**茂林寺沼**は「祈りの沼」、沼の恵みが暮らしを支えた**多々良沼**は「実りの沼」、館林城とつつじの名勝地を守ってきた**城沼**は「守りの沼」と言い換えることができると紹介されています。

〔 齋藤茂樹の北関東巡り バックナンバー 〕

	#1 鎌倉殿の13人		#11 慈覚大師 円仁
	#2 紅葉の群馬県		#12 バレンタインチョコ
	#3 栃木、埼玉の名所		#13 梅の名所 愛知・京都
	#4 栃木、群馬県庁		#14 梅の名所 栃木・群馬
	#5 全国御守り特集		#15 早咲きの河津桜
	#6 世良田東照宮・家康		#16 シアトルの花見
	#7 栃木・益子の陶器		#17 宇都宮市民合唱祭
	#8 奥の細道むすびの地		#18 桜の名所 愛知・兵庫
	#9 古鎌倉街道		#19 群馬の桜と上毛かるた
	#10 新田義貞・上毛かるた		

[Back](#)

「齋藤茂樹の北関東巡り」TOPへ戻る

[Home](#)

「ホームページ」表紙へ戻る